



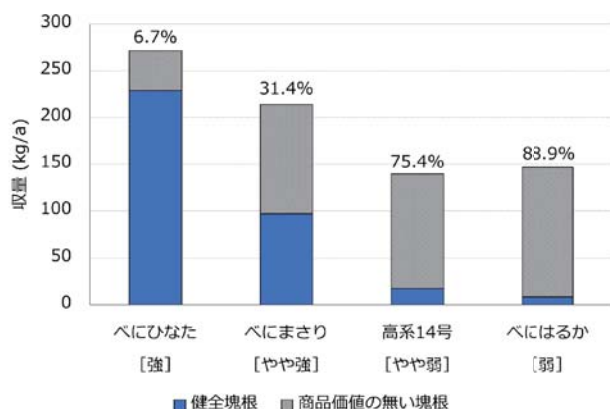
サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する 青果用新品種「べにひなた」

暖地畑作物野菜研究領域
川田 ゆかり (かわた ゆかり)

育成の経緯

南九州では2018年に初発生したサツマイモ基腐病（以下、基腐病）により、重要品目であるサツマイモが甚大な被害を受けました。青果用の主要品種である「高系14号」と「べにはるか」がいずれも基腐病に弱く、これまで主に他の地域で作られていた「べにまさり」（基腐病抵抗性“やや強”）を作付けする取り組みが進められましたが、同時に新しい抵抗性品種も強く求められていました。

「べにひなた」は基腐病に“強”の抵抗性を持つ新しい品種です(図1)。基腐病が日本で発生する以前の2014年に交配を行い育成していた系統で、本病害発生を受けて2020年に多数の維持系統の抵抗性を評価した際、基腐病に対して強い抵抗性を持つことが明らかになったことから、2023年に品種登録出願に至りました。



▲ 図1 青果用品種の基腐病に対する抵抗性検定結果 (2021年)

基腐病発生地域の圃場にて殺菌剤を散布せずに栽培 (5/6 植付、10/12 収穫) し、収穫した塊根を健全塊根と商品価値の無い塊根に分類してそれぞれの収量を調査した。グラフの上の数字は、収穫直前の地上部調査で株元に病徴が見られた株の割合を示す。品種名の下には抵抗性の判定を示した。

「べにひなた」の特徴

「べにひなた」の“ひなた”は、ほくほくとした食感でやさしい甘さがあるという特徴を表したものです。蒸しいもの食感は貯蔵しても粘質(ねっとりとしていること)にはならず、「べにはるか」よりも「高系14号」に似ています。糖度は甘みの強い「べにはるか」より低く、あっさりとした甘みの「高系14号」を上回ります。また、塊根の表面が滑らかで皮色に深みがあり外観品質に優れる点や(図2)、「べにはるか」並みに多収である点が特長です。

外観が良いため青果用として、また、貯蔵しても粘質にならず原料としての安定性があることから食品加工用としても、「高系14号」の代わりに利用されることを想定しています。



▲ 図2 「べにひなた」の塊根

抵抗性品種で貢献したい

「べにひなた」の“ひなた”には、基腐病で苦労されている方々に明るい気持ちになってほしいという願いも込められています。防除対策のなかでも、抵抗性品種の利用は非常に効果的な手段です。「べにひなた」が南九州における青果用サツマイモの安定生産に貢献することを期待しています。

同時に、今後も抵抗性品種の開発を進めます。今回の基腐病発生のような突然の危機に対応できるよう集団の遺伝的多様性を高く維持しながら、抵抗性系統を効率的に選抜していきたいと考えています。